

おこんぼるり

作 / さねとうあきら

演出 / 鈴木龍男



三味線の演奏や

力強い舞い

まわり舞台による軽妙な舞台転換が
観る人の想像力を掻き立てます

愛の絆で結ばれた老婆と狐の物語

寝たきりのイタコの婆さまは、腹を空かせ忍び込んできた狐に
「どうせ死ぬのだから」と家中の食べ物を振る舞いました
お礼に狐が不思議な浄瑠璃を唸ると
婆さまの病はすっかり治ってしまいました

「おらにも教えてくれ」
と婆さまは狐に懇願します
奏でる三味線と呪文のように続く
長い長いうたことば
なかなか覚えられない婆さまに
狐は苛々しながらも
二人三脚で村人の病を治して
楽しく暮らしていました

そこへ噂を聞きつけたお城のお侍がやってきて・・・



イタコと狐。本来は敵ともいえる両者が力を合わせて他者の為生きる姿、
権力者の身勝手な振舞い、中間（ちゅうげん）たちの強欲な行為。
さまざまな対比・対立が織り込まれた「愛と生命の物語」です。



一般社団法人日本教育演劇道場

劇団 **らくりん座**

<http://rakurinza.com>

〒329-2815 栃木県那須塩原市下大貫 1246

TEL0287-36-2488 FAX0287-36-4843

E-mail:kunugi@rakurinza.com